

平 成 2 5 年 度

掛川市教育委員会の事務に関する自己点検・評価報告書

（平成24年度対象）

平 成 2 5 年 9 月

掛 川 市 教 育 委 員 会

本報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条に基づき
平成24年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を提出するものです。

平成25年9月2日

掛川市教育委員会教育委員

平成24年4月1日から平成25年3月31日

委員長	小野 恵美子
委員長職務代理者	松下 一徳
委員	平松 季哲
委員	山本 和子
教育長(～5/18) (5/19～)	杉浦 靖彦 浅井 正人

目 次

	頁
I はじめに	
1 目 的	1
2 点検・評価の対象	1
3 点検・評価の方法	3
4 掛川市教育委員会評価委員会	3
II 教育委員会の活動状況	
1 教育委員会会議の開催状況及び協議案件	4
2 教育委員による園・学校等訪問	4
III 点検・評価の結果（平成24年度事業対象）	
1 教育委員会の活動	5
2 乳幼児教育	6
3 学校教育	8
4 社会教育	10
IV 総合評価	12
V 評価を受けて	13
VI 資料編	
1 平成24年度「掛川市の教育〈人づくり構想かけがわ〉」	14
2 関係法令	16
3 平成24年度教育費予算	17
4 総合計画数値目標に対する現状	18
5 用語解説	19

I はじめに

1 目 的

掛川市教育委員会では、「第1次掛川市総合計画」の政策大綱である「生涯にわたり自己を高め、心豊かに暮らせるまち」を基礎として、「人づくり構想かけがわ」を策定し、基本目標や取り組むべき施策を明らかにしています。この「人づくり構想かけがわ」は、毎年公表するとともに市議会をはじめ校長会、園長会、さらには、事務局職員にも趣旨の説明を行い、共有するとともに施策の実現に努めています。

このような中、平成19年6月「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正され、平成20年4月1日から施行されました。改正にあたって、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、議会に提出するとともに公表しなければならないとされました。そのため、掛川市教育委員会では、法の趣旨に基づき、平成24年度の教育委員会活動に関する報告書を下記のとおり作成しました。

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育行政を執行しています。そのため、教育委員会の基本方針に沿って、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、事後にチェックする必要があるものと考えられます。また、教育委員会は地域住民に対する説明責任を果たし、その活動を充実することが求められています。

こうしたことから、法改正においても教育行政の執行状況について、点検・評価を実施することが義務づけられ、教育行政の基本的な方針策定と同様に、教育委員会が、管理・執行しなければならない事務として位置づけられました。

2 点検・評価の対象

(1) 対象年度：平成24年度

(2) 対象内容

① 教育委員会の活動

教育行政の基本的な施策の決定や諸問題の解決策の重要案件等を審議決定するため、月1回開催する定例会や必要に応じて緊急案件を審議する臨時会の運営状況について評価を行います。

また、会議の公開、保護者や地域住民への情報発信、教育委員会・市長部局の連携、教育委員の自己研鑽、幼稚園や小・中学校・所管施設の訪問状況等についても評価を行います。

② 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

平成24年度掛川市の教育は、基本目標を【「夢実現に向かう、心豊かで凜とした市民」の育成】とし、基本方針を【「知性と創造性にすぐれ、豊かな心と健やかな体をそなえた、自己実現を目指す自立した市民」の育成】と【「豊かな生涯学習社会の実現に向け、人づくり・まちづくりの担い手としてそれぞれの役割を担い、自らが進んで行動し、地域社会を共に支える市民」の育成】としました。

構想推進の基本的な考え方は3点あり、1つ目は【「掛川市総合計画」の段階的推進を図る。】2つ目は、【市民総参加による教育の振興に努める。「かけがわ教育の日」の開催。】3つ目は、【「生涯学習運動」が豊かに花開くまちづくりの一翼を担う。】です。

そして、「人づくり構想かけがわ」の基本目標・基本方針を実現させ「乳幼児教育・学校教育・社会教育」の具現化を図るため、以下のとおり基本目標と重点施策を定めていますので、これらを評価の対象としました。

○乳幼児教育・・・豊かなふれ合いや生活体験の中で個性を発揮し、自立心と人とのかかわる力のある子どもの育成

- ① 養護・教育内容の充実
- ② 保育者の資質・意欲の向上
- ③ 安全・安心で豊かな園環境の整備
- ④ 家庭や地域住民等と連携した園
- ⑤ 保育一元・幼保一体化の推進

○学校教育・・・夢に向かって、自ら考え自ら判断し、心豊かにたくましく生きる子どもの育成

- ① 「確かな学力」の向上を目指す学校
- ② 豊かな感性、健やかな心身を育む学校
- ③ 家庭や地域住民等と連携した開かれた学校
- ④ 社会の変化に対応する学校
- ⑤ 信頼される学校

○社会教育・・・市民の主体性を尊重し、学校、家庭及び地域住民等の連携・協力のもと、心身共に健康でたくましく知性と創意に富み、郷土に誇りと愛着を感じる市民の育成

- ① 次代を担う青少年健全育成の推進
- ② 家庭教育力の向上

- ③ 生きがいに満ちた豊かな人・暮らしづくり
- ④ 郷土の歴史や文化を愛する心の育成
- ⑤ 生涯スポーツの振興
- ⑥ 図書館サービスの充実

3 点検・評価の方法

自己点検・評価の内容については、外部識者により組織された、「掛川市教育委員会評価委員会」において検討を行いました。

点検・評価は、自己点検・評価シートを作成し、「教育委員会の活動」では活動項目ごと、「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」では主要事業ごとに自己点検・評価を行い、「点検・評価」欄に反省や今後の改善点などを記入しました。

4 掛川市教育委員会評価委員会

(1) 委員名簿

役 職	氏 名	備 考
委員長	山崎 保寿	静岡大学 教育学部教授
副委員長	宇佐美 千穂	掛川市民大学院 卒業生
委 員	山下 徹	公益財団法人蘇峰会 事務局長
委 員	宮石 美佐	自営業

(2) 開催の経緯

平成25年

6月5日(火) 第1回評価委員会

- ・委員の委嘱
- ・平成25年度評価(対象:24年度)の内容について協議
- ・平成26年度評価シートの形式、評価の方法について協議

7月31日(水) 第2回評価委員会

- ・平成25年度掛川市教育委員会の事務に関する点検評価報告書について協議
- ・平成26年度評価シートの形式、評価の方法について協議

Ⅱ 教育委員会の活動状況

1 教育委員会会議の開催状況及び協議案件

教育委員会会議は、教育委員により定例会が毎月1回開催され、必要に応じて臨時会が招集されます。平成24年度は、定例会12回、臨時会3回、計15回の教育委員会会議が行われました。

教育委員会会議に諮られた「教育委員会が管理・執行する事務」に関する協議案件数は計59件で、項目ごとの案件数は以下の通りです。

- ・ 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること 12件
- ・ 教育委員会に設置された附属機関の委員の任命を行うこと 20件
- ・ 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること 15件
- ・ 学校の組織編成、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導の基本方針に関すること 5件
- ・ 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の職員の任免、その他の人事に関すること 3件
- ・ 教育予算その他議会の議決を経るべき事項 3件
- ・ 校長、教員その他の教育関係職員の研修に関すること 1件

2 教育委員による園・学校等訪問

- ・ 幼稚園 6園
- ・ 小学校 のべ12校
- ・ 中学校 のべ4校
- ・ その他 4施設

平成25年度点検・評価シート

Ⅲ 点検・評価の結果(平成24年度事業対象)

1 教育委員会の活動

活動項目	24年度の実績	点検・評価(次年度に向けた改善点等含む)
①教育委員会の会議の運営及び運営改善	○今年度も定例会ほか臨時会を開催し、合計62件の案件を審議した。これら全ての案件について、会議開催前に、事務局から教育委員へ、より活発な議論ができるよう事前説明を含めた資料の事前配付を行い、効率の高い円滑な会議運営を図った。 ○移動教育委員会※として、6月定例会を教育センター、9月定例会を大東海洋センター、2月定例会を大須賀中央公民館で開催し、教育委員会が所管する各施設での活動の様子や文化財の保存状態等を視察するとともに、現状の成果や今後の課題等を把握する機会として開催した。	○教育委員会会議では活発な議論がされており、必要に応じて臨時会を開催するなど適切な進行管理を行い、教育行政の円滑な執行に努めた。 ○今後も広範な教育行政が成果を上げて遂行されるよう積極的に議論することが必要である。特に、教育委員会が所管する小・中学校の校舎等施設の老朽化に伴う改修工事を計画的に進めていくための協議が必要となる。
②教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	○教育委員会会議は、人事案件などの非公開とされた会議を除き、原則、公開とした。また、毎回の議事録要旨を市ホームページに掲載した。 ○市民総参加による教育の振興を図るための教育委員会が主催する第6回「かけがわ教育の日※」の開催記事等を、事前から事後にわたり、広報かけがわや市ホームページを使って広く情報を発信するよう努めた。	○教育委員会の傍聴者はなく、直接、教育委員会の会議を公開することはできなかったが、会議録を市ホームページにて公開した。今後、教育委員会の重要施策である「中学校区学園化構想」の推進のため、リーフレット等の活用により情報を発信していく。
③教育委員会と市長及び市長部局との連携	○市長及び市長部局幹部職員と教育委員で組織する人づくり構想かけがわ推進本部会議※を3回(7月、11月、3月)開催し、中学校区学園化構想の推進状況についてや今後の人づくりについてなど、教育委員会における施策や課題について意見交換を行った。	○教育行政に関する種々の課題等について、市長及び市長部局と実質的な議論と活発な意見交換ができていく。これにより、昨年度に引き続いて教育施設の耐震化等を最優先にした取組ができた。 ○今後も教育施策の充実・発展のために、推進本部会議を継続的に実施して、市長及び市長部局との連携をさらに深めていく必要がある。
④教育委員の自己研鑽	○中学校区学園化構想※の推進に資するため、文部科学省の「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」における実証的共同研究を行った先進地(奈良市、大阪市)を2月に視察した。	○24年度に行った研修視察は、25年度以降、「中学校区学園化構想※」を全市的に推進していくためにたいへん有意義なものとなった。今後、先進地の取組によるこれまでの成果や課題等を参考にしながら、園・学校、家庭、地域が一体となって9年間の一貫した教育活動を地域全体で支援する取組を進めていく。
⑤園・学校及び教育施設に対する支援、条件整備	○学校の耐震補強は、災害時の避難所になるなどその緊急性から、県の耐震化基準を満たしていない学校施設の早期耐震補強工事を実施した。 ○教育委員による園・学校訪問を行ったり、小・中学校の教職員との意見交換会を実施したりして、教育現場の現状把握に努めた。	○24年度に引き続き、25年度も残る6校の学校施設の耐震補強工事を実施していく。今後は、さらに、教育委員会が所管する施設に関して、老朽化に伴う改修工事の計画を作成していく必要がある。 ○今後も、教育委員と小・中学校の教職員や保護者等との意見交換会や園・学校訪問を実施して、教育現場の課題の把握に努めていく。

2 乳幼児教育

24年度の主要な取組	指 標	目 標 値	現状値(24年度末現在)	点検・評価(次年度に向けた改善点含む)
「発達相談員※」や「幼児ことばの教室※」による要支援児の保育充実	指導に満足している保護者の割合	89%	93%	○特別支援学級が存在しない園にとって、「発達相談員※」や「幼児ことばの教室※」が一番身近な相談窓口となった。 ○今年度初めて、園が夏季休業中の時期に合わせて、幼児ことばの教室※を会場にして通級児に関する連絡会を開催したことで、園との連携をより深めることができた。 ○国の緊急雇用制度終了に伴い、ことばの指導員が5人から3人体制に戻ったことで指導枠が減り、十分な受入ができなかった。改めてことばの指導員の増員を図る必要がある。
保育者の専門性を高める研修の充実	園運営に満足している保護者の割合	98%	98%	○保護者の満足度調査は、4段階(A・B・C・D)評価で実施しており、保育者の専門性を磨く各種研修の成果により、各園の保育環境の充実や、子ども一人一人に寄り添ったきめ細やかな援助を実現することにつながり、AとBの評価を合わせた保護者の園運営全般の満足度は非常に高く、目標値を達成できた。 ○A評価のみで比較した場合、園によってばらつきがあるため、各園における園内研修の更なる充実により、職員の資質向上を図っていく必要がある。
待機児童対策の推進	1. 保育ママ※利用児数 2. 認可外保育所への就園率 3. 一時預かり利用児の数	1. 9人 2. 82% 3. 6,200人	1. 9人 2. 82% 3. 5,218人	○国定義の待機児童数は、H25.4月現在19名で、前年度同期より8名減少した。 ○保育ママ※3人で実施。保育ママ※増員を目指し、研修会を実施した。 ○一時保育利用児数は、保育所定員一杯まで受け入れている園が多い。月初めの予約で埋まってしまうため、月途中での急な利用や新規の利用がしにくい状況がある。
「預かり保育※」の充実	1. 実施園数 2. 安心して子育てができると感じている保護者の割合	1. 2園 2. 80%	1. 2園 2. 93.5%	○今年度から、さかがわ幼稚園においても実施したことで、実施園数は三笠幼稚園と併せて2園となった。 ○三笠幼稚園においては、市の指定研究園として、預かり保育の推進を研究主題として、2年間試行錯誤してきた経緯があり、3年目の実績としては、安心して子育てができると応えた保護者は99%と非常に高く、子育て支援の充実に大きく貢献できた。 ○さかがわ幼稚園においては実施初年度であり、三笠幼稚園に続く形でスムーズにスタートできたが、まだ利用者は一部に限られている。三笠幼稚園同様、徐々に利用者が増えていくものと期待できる。
幼保園における就学前教育の充実	園運営に満足している保護者の割合	93%	92%	○昨年度までは、保護者の満足度に多少ばらつきが見られたが、全ての園が開園から3年以上経過したことで、落ち着いた園運営ができてきて、4段階評価のAとBを合わせた評価が、全園90%を越えた。 ○同じ幼保園であっても、母体となる法人にそれぞれ特色があるため、幼保園においても学校評価を実施する中で、それぞれの保護者要望に対応しながら、特色ある経営を目指していく必要がある。

施策の方向とその他の実績(次年度に向けた改善点含む)

【1】養護・教育内容の充実	【教育内容や指導方法の充実】 ○市立11園について12回の訪問指導を実施し、それぞれの園における保育の課題を実際の保育を通して研修し、保育内容の充実に努めた。 ○要支援児のための保育充実は、幼児ことばの教室※や発達指導員との連携により、幼児理解を深めたり、園の支援体制を見直すことにより、適正な保育の実施に努めた。
【2】保育者の資質・意欲の向上	【特別支援教育理解推進のための保育者の資質向上】 ○乳幼児における特別支援教育理解推進のために、市教育センターの短期特別研修として外部講師を招き特別支援教育に関わる研修会を開催し、各園の特別支援教育の充実を図った。 【園内教育の充実と学び合う職員集団づくりの確立】 ○市指定研究等の園内研修に研修主任を参加させることで、各園の園内研修の活性化とともに研修主任の育成を図った。 ○次年度は、非常勤幼児教育士の増加が見込まれるため、これまで以上に園内研修の充実が求められる。
【3】安全・安心で豊かな園環境の整備	【安全で安心して生活できる施設・設備の充実】 ○施設の安全確認を行い、必要な施設補修ができた。横須賀幼稚園教室床張替え工事や千浜幼稚園保育室天井修理工事などの高額工事や遊具・便所の修繕、駐車場の整備、屋根の修理といった小額小額修理を優先順位に基づいて行った。 【園児の安全確保及び園の安全管理に向けての取組】 ○市の指定研究園の研究テーマとして「安全教育」を取り上げ、各園の研修主任を研究指定園の園内研修に参加させたことや、園務主任研修会における研修テーマとして設定し研修したことで、各園の「安全教育」を改めて見直す機会となり、マニュアル作成にも反映された。 ○各園の地震防災対策マニュアルは、形として整ってきたので、その内容を全職員が熟知し、いざという時に活用できることが課題となる。
【4】家庭や地域住民等と連携した園	【「学校評価」の実施と情報公開の推進、地域の教育力の活用】 ○各園において、年1回以上の保護者アンケートを実施する中で、学校評価そのものがシステムとして定着し、地域住民による学校関係者評価も全園が実施した。園によっては、自己評価結果における保護者への公表が不十分なところがあるので、更なる保護者との連携・協力に向け、公表の中身について検討していく必要がある。
【5】保育一元・幼保一元化の推進	【市の「幼保園の理念」に基づく園運営の推進】 ○全ての園が開園から3年以上経過したことで、落ち着いた園運営ができてきている。 ○幼保園においても学校評価を実施する中で、それぞれの保護者要望に対応しながら、特色ある経営を目指していく必要がある。 ○私立幼保園との協定に基づき、園訪問を実施し、園運営や保育についての指導・助言を実施している。 【就学前教育の充実】 ○就学前教育に向けて真に必要なものを理解し、乳幼児期を大切にした養護・教育を推進する必要がある。

3 学校教育

24年度の主要な取組	指 標	目 標 値	現状値(24年度末現在)	点検・評価(次年度に向けた改善点含む)
魅力ある授業の展開	「学校で好きな授業がある」と答える児童生徒の割合	92%	93.7%	○小学校の外国語活動に100%ALTを配置し、学級担任の負担を軽減したり、中学校の英語の授業でも英語を母語とするALTの配置をし生きた英語を学ぶ場の設定を行った。総合的な学習の時間等に外部からの指導者を迎えたり、地域のボランティアを活用したりして児童生徒が楽しく学べる工夫を進めてきた。 ○平成25年度は、言語活動の充実に向けて研究指定を行い多数の教科での充実を研究していきたい。
学校図書館充実事業	「読書が好き」と答える児童生徒の割合	75%	74.5%	○本年度、学校図書館支援室※司書の勤務時数を週3日(1日4時間)とし、委託団体と連携を図りながら、市内31校にのべ82回の訪問を行い、学校図書館の整備支援を進めてきた。今後も、引き続き整備を進めるとともに、子どもと本をつなぐ取組(図書館担当者研修会、市立図書館との連携、ボランティアの養成)を進めていくようにする。 ○平成25年度は、学校司書の増員を図る。
中学校区学園化構想※の推進	小・中学校ボランティアの数	2,000人以上	2,380人	○平成24年度末で城東中学校区の研究指定が終了し、いよいよ各中学校区での取組がスタートする。本年度は、学生ボランティアや退職互助ボランティア等徐々に増えてきている。また、市民ボランティアは中学校区学園化に向けて、学校や地域からの呼びかけ等が定着し、目標の2000人を大きく上回り、学校地域に根付いた動きができてきており、目標を達成した。 ○ボランティア活動も、常に2000人を超えるよう働きかけをするとともに、学生ボランティアにも力を入れていきたい。
「頼もしい先生」を育成する研修の充実	「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合	93%	91.6%	○年度末に学校で好きな授業があり、学校に行くのが楽しみであると答える児童生徒の割合を向上させるため、研修の充実を図ってきた。新任の管理職の「かけがわ学校経営塾」※をはじめとし、悉皆で各分野での資質向上をねらう研究、児童生徒の興味を引く授業展開の研究、教材研究等たいへん充実した取組となった。 ○平成25年度は教職員の多忙化を軽減するためにも、研修の回数や内容の見直しを図っていくようにする。
防災対策事業	地域防災訓練への児童生徒の参加率	80%	80%	○本年度、「掛川市防災教育」として、児童生徒の防災対応能力の向上を目指し、学校における工夫した避難訓練や防災教育授業の実施等を行った。また、学校の防災対策マニュアルの作成や防災研修会も実施した。これらにより、児童生徒の防災意識は高まってきている。今後は、広域避難所連絡会を充実させ、地域との合同訓練等をさらに推進していきたい。

施策の方向とその他の実績(次年度に向けた改善点含む)

【1】「確かな学力」の向上を目指す学校	【小学校の外国語教育の充実】 ○平成24年度は、全ての外国語活動時間に担任とALTのチームティーチングの授業が行われ、児童の興味関心が向上し、イングリッシュイマージョンキャンプ※への応募者もたいへん多かった。平成25年度は、より多くの児童が参加できるように工夫をし、イングリッシュデイトリップの充実を図る。また、学生ボランティアを募り、工夫した活動を行いたい。
【2】豊かな感性、健やかな心身を育む学校	【道徳教育の充実】 ○各校の道徳主任が「かけがわ道徳年間計画表」と「かけがわ道徳授業案」を作成し、実際に授業を行う。それらを「かけがわ道徳授業実践案集」としてまとめ、各校に配布する。 【読書教育の充実】 ○平成25年度県の緊急雇用で司書を3名増員し、各学校の図書館を使いやすくするために、図書の配置や新刊図書の紹介、図書館の整備等に力を入れていく。
【3】家庭や地域住民等と連携した開かれた学校	【中学校区学園化】 ○平成25年度は、各中学校区で地域コーディネーター※を決め、本格的実施に向けた準備が行われる。ボランティア活動も一般市民、学生、退職互助と学校地域に根付いた動きができてきており地域からの呼びかけを積極的に行い目標を目指したい。 ○大学などへの働きかけを強化し、学生ボランティアを増やしていきたい。
【4】社会の変化に対応する学校	【外国人児童生徒の指導充実】 ○平成24年度は、外国人児童生徒支援スクールの時間を変更し、担当教職員の参加もあり、充実した活動を行うことができた。平成25年度は、さらに活動内容を検討し、外国人児童生徒とその家族を支援する必要がある。
【5】信頼される学校	【「頼もしい先生」を育成する研修の充実】 ○豊かな人間性と社会性を身に付けた先生、情熱をもち、いじめなどの問題に毅然とした態度で対応する先生など、頼もしい先生を育成するために、かけがわ学校経営塾※や市教育センター指導技術研修などの充実を図る。

4 社会教育

24年度の主要な取組	指 標	目 標 値	現状値(24年度末現在)	点検・評価(次年度に向けた改善点含む)
青少年健全育成の充実	声掛け運動申込者数 (20歳以上累計)	14,000人	13,948人	○8月に実施した全市一斉青少年育成環境美化活動には26,650人が参加した。中学生及び小学生は昨年度を上回る参加率であった。今後も学校、家庭、地域が連携し、健全育成活動を推進する必要がある。 ○地域の青少年声掛け運動に平成24年度は374人の参加申込があり、参加率は県内全体では第5位、市の部では3位であり、今後も継続して運動を続けて行く必要がある。
父親のための家庭教育出前講座※	企業等での講座開催件数	10件	5件	○父親としての家庭教育の意義や役割を学習する機会とするため、「父親のための家庭教育出前講座※」を5箇所で開催し、265人が参加した。
市民一人ひとりが参画できる社会教育の推進	生きがいを感じる趣味や活動に取り組む市民の割合	68%	55%	○60歳の集い(耳順式)※も3年目を迎え、参加者360人、参加率19.9%と前年比で6.43%増と参加者が増えてきた。今後も工夫をして更に多くの方に参加していただくよう努力が必要である。 ○生涯学習を実践するための知識や教養を身に付けることができるよう、各種講座・教室の充実を図ってきたが、学習によって得た知識を地域社会などで活かしてもらうよう工夫が必要である。
民俗資料・埋蔵文化財の保存と活用の推進	展示会等の来場者数	3,360人	2,221人	○埋蔵文化財センターや大須賀歴史民俗資料館への来場者は横這い状態である。また、出土文化財展、考古展なども同様であり、今後も保護保存意識の高揚に努めなくてはならない。 ○保全センターへ移動させた民俗資料の整理は、ほぼ終了したが、展示などの活用を考えていく必要がある。
生涯スポーツの推進	スポーツ推進委員の人数	35人	26人	○子どもからお年寄りまで心身ともに健やかに暮らすために、市民の生涯スポーツへの取り組む意欲を高めるよう、スポーツ推進委員26名が調整をして地域等に出向き指導を行ってきた。仕事を持つための活動のため日程等の調整が難しいが、PR等に努め、さらに生涯スポーツの推進及び普及を図る必要がある。
図書館資料の充実	3館蔵書点数	59万点	598,957点	○24年度の目標を1.02%上回ることができた。引き続き、公共図書館の役割を果たすため、利用者の要求、社会の動向や時代の動きに配慮し、郷土資料を含め、広く市民の文化・教養・調査研究に資する資料を収集する。 市民ニーズに合わせた一般書、児童書その他、郷土資料、テーマ資料、視聴覚資料などの選書を工夫し、所蔵資料の充実を図る。
読書活動の推進	図書館入館者数	46.1万人以上	458,904人	○24年度の目標を0.45%下回ったが、概ね前年度並みの入館者であった。引き続き、子ども読書週間の諸行事や図書館フェスティバル※、また、各種講座の開催、図書館だより、図書館ホームページ等によるPRや、移動図書館の巡回などにより、読書活動の推進に努める。

施策の方向とその他の実績(次年度に向けた改善点含む)

【1】次代を担う青少年健全育成の推進	【青少年健全育成活動の充実】 ○中学校区学園化構想※の2年間の研究指定を実施した城東中学校区も、他中学校区のモデルとなる素晴らしい実績を残すことができた。次年度からは、それぞれの中学校区が地域の特色を活かし、学園化を推進していきたい。 【体験学習活動の充実】 ○通学合宿※や放課後子ども教室※の実施箇所をPRなどで増やすよう努力した。今後も体験型学習活動の重要性を理解していただき推進を図る必要がある。
【2】家庭教育力の向上	【保護者を対象とした相談・支援体制の充実】 ○家庭教育学級※については、幼稚園12学級、幼稚園6学級、計18学級で開設された。引き続き、「親の学び」を目的とした学習会が活発に行われるよう、方向性について検討する必要がある。
【3】生きがいに満ちた豊かな人・暮らしづくり	【生涯学習活動への参加促進と生涯学習機会の充実】 ○放送等を効果的に活用した大学教育としてレベルの高い学習の機会を提供するために、放送大学掛川教室※を中央図書館内に開設し、市民の生涯学習の場の充実を図った。施設を活用していただくためにも受講生を増やす努力が必要である。 ○学習機会の提供として各公民館で生涯学習講座を開設し、多くの市民に受講していただいているが、今後も社会の変化や市民のニーズに対応した講座や教室を企画し、市民の生きがいに満ちた豊かな人づくり・暮らしづくりにつながるよう充実を図る。
【4】郷土の歴史や文化を愛する心の育成	【文化財の調査・保護・保存の推進】 ○掛川市内には現在702遺跡が知られており、県内でいちばん遺跡の多い市だといわれているが、遺跡の様子を示した「遺跡地図」の精度に問題もあるので、今までの情報などを精査し、整理する必要がある。 【埋蔵文化財の保存と活用】 ○遺跡から発見された遺物は埋蔵文化財センターで管理し、展示するとともに考古展や出土文化財展を開催し、市民が目にするように努めている。今後も郷土の歴史や文化財に触れる機会を増やす必要がある。
【5】生涯スポーツの振興	【スポーツ・レクリエーション活動の推進】 ○市民のだれもが、いつでも、どこでも、自分の体力に応じたスポーツを楽しむことができるよう、積極的に働きかけるとともに、トランポリンの拠点としての普及・啓発に努める必要がある。 【指導者の育成、スポーツ団体との連携】 ○市民にスポーツの楽しさや大切さ、正しい身体の動かし方を伝え、生涯スポーツを普及・推進するため、スポーツ推進委員会、体育協会などと連携し、指導者を育成する必要がある。また、各種競技において競技力の向上を図る必要がある。 【スポーツ施設の整備、管理運営の充実とネットワーク化の推進】 ○施設の老朽化が目立つが、市民が気軽に安心してスポーツを楽しむために、スポーツ施設の定期的な点検・修繕を行い、施設の機能低下を防ぐ必要がある。また、市民ニーズに応じた施設整備を計画的に進める必要がある。
【6】図書館サービスの充実	【図書館資料の充実】 ○資料収集方針により図書館資料の充実に務めた。引き続き、市民の書斎・学習等の場として、市民ニーズに合わせた一般書、児童書その他、郷土資料、テーマ資料、視聴覚資料など、所蔵資料の充実を図る。 【レファレンスサービス及び貸出業務の充実】 ○市民の調査研究に答えるためレファレンスサービスに努めている。今後についても、各種研修会への参加等によりその技量を高める。また、引き続き、祝日開館・開館時間の延長などにより、貸出業務の充実に努める。

IV 総合評価

1 評価できる点

本自己点検・評価制度は、「人づくり構想かけがわ」の推進状況を中心として、教育委員会の活動が次年度以降への継続と発展につながることを趣旨として実施されている。掛川市は、本制度を実施して5年目となり、以下に述べるように具体的な成果と課題が明らかになり、毎年の改善に結び付いている。

点検・評価の結果を総括的に述べると、まず、「1 教育委員会の活動」については、全般に教育委員会定例会で活発な議論が行われており、教育行政の円滑な執行がなされている。効率の高い会議運営をはじめ、移動教育委員会、ホームページ・リーフレットによる情報発信、先進地視察、小中学校教職員との意見交換など積極的な活動が行われている。中学校区学園化構想、早期耐震補強工事などについては、その緊要性にかんがみ今後も重点的に推進していく必要がある。

「2 乳幼児教育」については、発達相談員制度、幼児ことばの教室、保育者研修、特別支援教育研修会、幼保園の就学前教育などが充実している。特に、預かり保育が充実してきたことにより、安心して子育てができると答えた保護者の割合が93.5%に達し、目標値（80%）を大きく上回っている。

「3 学校教育」については、魅力ある授業の展開、学校図書館充実事業の推進、中学校区学園化構想の促進、管理職研修および一般教員研修、掛川市防災教育などが成果を上げつつある。また、イングリッシュイマージョンキャンプ、かけがわ道徳研究委員会、かけがわ学校経営塾、外国人児童生徒支援スクールなどの具体的な取組が工夫されている。

「4 社会教育」については、全市一斉青少年育成環境美化活動、体験型学習活動、60歳のつどい（耳順式）、放送大学掛川教室、トランポリン拠点、図書館フェスティバルなど、創意ある活動が行われている。また、家庭教育学級、文化財の調査・保護、生涯スポーツの振興、図書館資料の充実などが積極的に取り組まれている。

2 今後の課題となる点

第1に、本報告書で指摘された具体的な改善事項については、各担当において、早急の改善を図ることが必要である。個別的には、幼児ことばの教室指導員および保育ママの増員、家庭教育出前講座の拡大、埋蔵文化財の活用なども課題となっている。

第2に、掛川市の歴史と文化を生かした教育施策を促進することである。これまで、郷土の文化や偉人に関する教材作成が効果を上げており、今後も「人づくり構想かけがわ」に関する施策を推進していく際に、豊かな教育資源を一層活用していくことで掛川市全体が魅力ある教育の町となっていくことが期待される。

第3に、掛川市の地理的環境から、地震・津波災害に備えた防災教育と復興教育の長期的な取組が重要である。乳幼児教育、学校教育、社会教育のすべての領域に関わり、市民の意識を高め具体的な行動に結び付く防災対策の推進が必要である。

平成25年8月
掛川市教育委員会評価委員会
委員長 山崎 保寿

V 評価を受けて

評価委員の方々の豊富な経験や知識をお借りし、教育委員会の事務に関する点検評価を、ここに報告書としてまとめることができました。この評価は、教育委員会活動の充実を図るためのものであり、その視点から評価委員の皆さまには活発に協議していただき、各項目について御意見や御指摘をいただき、的確な評価を得ましたことを、大変ありがたく思います。評価委員会の報告に「5年を経ることで具体的な成果と課題が明らかになり、毎年の改善に結びついている。」とありますように、制度として定着し、かつ課題が明確化され、24年度の点検をしながら25年度の取り組みが明示され、次の施策へと発展していくという良いサイクルができてきています。

「1 教育委員会の活動」として、「活発な議論と円滑な執行、積極的な情報発信・研修・意見交換」等高い評価をいただきました。全国的には、いじめ問題等に端を発し、教育委員会制度そのものが問題になっているところです。掛川市教育委員会は「市民のための教委」を掲げ、その存在が広く認識され、高く評価されるよう努めて参ります。

「2 乳幼児教育」については保護者の満足度が90%を超えるなど高い評価を得ています。特に「預かり保育」が充実してきました。今後は待機児童対策に取り組んでいきます。

「3 学校教育」は現在「中学校区学園化構想」に向けて取り組んでいるところです。校長のリーダーシップのもと、コーディネーターはじめ、多くのボランティアや市民の皆様との協力を得て各学校区が特色ある活動を始めています。魅力ある授業、頼もしい先生も90%を超える高い評価を得ました。耐震化については市当局に前倒しで実施していただき、各校防災計画・マニュアル作成・訓練実施に取り組んでいます。

「4 社会教育」については「積極的に取り組んでいる」という評価を得ました。生涯学習を掲げる本市としまして、市民の皆様の生きがいや住み良い街づくりを視野に入れて、引き続き努力していく所存です。

7月に発表された「市民の意識調査報告書」によりますと、子育て、教育に関する分野は「満足度も優先度も高い施策」のゾーンに入っており、一方図書館を初めとする文化、スポーツ、健全育成、社会教育分野は、優先度はそれほど高くはありませんが、満足度は高いゾーンに入っています。今年度「青少年の健全育成」が満足度の高いゾーンに位置づけられました。教育委員会の管轄分野は市民の皆様の意識も満足度も高い重要分野であることを再認識するとともに、今まで進めてきた掛川ならでの教育を一層力強く推進していきます。

今後の方向性として「市の歴史と文化を生かした教育施策の促進」があげられました。「人づくり構想かけがわ」を推進するにあたり、豊かな教育資源を活用し、魅力ある教育の町となるようご示唆いただきました。あらためて「人づくり」の大切さを認識するとともに、地域の持つ力を生かし、地域の絆を強め、郷土に対する誇りと愛着を育むよう、今後の活動に生かして参ります。特に防災教育については評価委員会のご指摘のように、市民の意識を高め、具体的な行動に結びつける対策が緊急課題と考えます。

教育委員会の活動は多岐にわたりますが、この評価を通して、市民の皆様には教育委員会の活動や施策について御理解を賜り、また御意見や御協力をいただきながら、さらに掛川市の教育の振興に努めていきたいと考えております。重ねて評価委員会の皆様の御尽力に感謝するとともに、市民の皆様のより一層の御理解、御協力をお願いします。

平成25年8月
掛川市教育委員会
教育委員長 小野恵美子

基本目標

市民の主体性を尊重し、学校、家庭及び地域住民等の連携・協力のもと、心身共に健康でたくましく知性と創意に富み、郷土に誇りと愛着を感じる市民の育成

【施策の方向と主要事業】

【24年度主要事業・指標・目標値】

① 次代を担う青少年健全育成の推進

- (1) 青少年問題協議会活動、非行防止活動の充実
 - ・青少年問題協議会の開催、補導センターによる補導活動 など
- (2) 青少年健全育成会活動の充実
 - ・全市一斉青少年育成環境美化活動 など
- (3) 体験学習活動の充実
 - ・通学合宿、放課後子ども教室、野外活動、少年リーダー教室 など
- (4) 地域学習の推進
 - ・郷土の偉人顕彰事業
- (5) 地域の学校支援体制の推進
 - ・学校支援地域本部事業の推進

【主要事業】

青少年健全育成の充実

【指標】

声掛け運動申込者数
(20歳以上累計)

【現状値(23年度)／目標値】
13,574人／14,000人

② 家庭教育力の向上

- (1) 家庭教育に係わる講座・教室など学習機会の充実
 - ・家庭教育講演会、父親のための家庭教育出前講座 など
- (2) 保護者を対象とした相談・支援体制の充実とネットワークづくり
 - ・家庭教育学級開設、PTA活動支援、子育てサポーター養成 など

【主要事業】

父親のための家庭教育
出前講座

【指標】

企業等での講座開催件数

【現状値(23年度)／目標値】
7件／10件

③ 生きがいに満ちた豊かな人・暮らしづくり

- (1) 生涯学習活動への参加促進と生涯学習機会の充実
 - ・生涯学習講座、成人式、60歳の集い など
- (2) 公民館活動における学習機会の充実と今後のあり方検討
 - ・大東北公民館講座、大須賀中央公民館講座 など
- (3) 生涯学習リーダーの育成と登用
 - ・生涯学習講座企画実行委員会、公民館講座
- (4) 人権教育の推進
 - ・人権講演会、小中学校新任職員研修、人権ポスター・作文表彰 など
- (5) 報徳の教えなどを大切にす豊かな心の育成
 - ・報徳講座の企画・開催

【主要事業】

市民一人一人が参画できる
社会教育の推進

【指標】

生きがいを感じる趣味や
活動に取り組む市民の割合

【現状値(23年度)／目標値】
57.7%／68.0%

④ 郷土の歴史や文化を愛する心の育成

- (1) 二の丸美術館の運営の充実
 - ・特色を鮮明にした企画展の開催、教育講座の開催 など
- (2) 吉岡彌生記念館の運営の充実
 - ・健康セミナーの開催、市民健康調査研究、特別展の公開講座 など
- (3) 大須賀歴史民俗資料館の運営と民俗資料の保存と活用
 - ・歴史民俗資料館講座、民俗資料の保存と活用
- (4) 埋蔵文化財の発掘調査と保護意識の高揚
 - ・遺跡確認調査・発掘調査、遺跡現地説明会、夏休み文化財教室
- (5) 埋蔵文化財の保存と活用
 - ・出土遺物の管理、出前文化財講座、出土文化財展 など
- (6) 文化財の調査・保護・保存の推進
 - ・文化財保護審査会の開催、大日本報徳社建造物修復支援 など
- (7) 文化財保護団体や保存会などの活動支援
 - ・民俗芸能保存団体への支援、文化財愛護団体への支援
- (8) 史跡の保護・保存と活用の推進
 - ・公有化事業、発掘調査事業、史跡整備事業、維持管理事業

【主要事業】

民俗資料・埋蔵文化財の
保存と活用の推進

【指標】

展示会等の来場者数

【現状値(23年度)／目標値】
2,279人／3,360人

⑤ 生涯スポーツの振興

- (1) スポーツ・レクリエーション活動の推進
 - ・掛川・新茶マラソン大会、トランポリン推進事業 など
- (2) 指導者の育成、スポーツ団体との連携
 - ・市民生涯スポーツ・競技力向上推進事業、指導者養成事業
- (3) スポーツ施設の整備、管理運営の充実とネットワーク化の推進
 - ・(仮称)南部体育館の建設など

【主要事業】

スポーツ推進委員会の充実

【指標】

スポーツ推進委員の人数

【現状値(23年度)／目標値】
25人／35人

⑥ 図書館サービスの充実

- (1) 図書館資料の充実
 - ・各館の特色を生かした所蔵資料の充実
- (2) レファレンスサービス及び貸出業務の充実
 - ・職員のリファレンス(学習・研究・調査等を援助)、相談対応技術の向上
- (3) 読書活動の推進
 - ・「こどもの読書週間」、「図書館フェスティバル」、「移動図書館」等による読書活動の推進
- (4) 掛川市子ども読書活動推進計画の推進
 - ・家庭・地域・園・小中高等学校などが連携し、子どもの読書活動を推進
- (5) 未利用者の利用促進
 - ・各種講座の開催や広報紙・インターネットによる情報提供

【主要事業】 図書館資料の充実

【指標】 3館蔵書点数

【現状値(23年度)／目標値】
57.7万点／59万点

【主要事業】 読書活動の推進

【指標】 図書館入館者数

【現状値(23年度)／目標値】
46万人／46.1万人以上

平成
24年度

掛川市の教育

【概要版】

人づくり構想かけがわ

～教育の光は掛川から～

【基本目標】

「夢実現に向かう、心豊かで凜とした市民」の育成

基本方針

- 1 「知性と創造性にすぐれ、豊かな心と健やかな体をそなえた、自己実現を目指す自立した市民」の育成
- 2 「豊かな生涯学習社会の実現に向け、人づくり・まちづくりの担い手としてそれぞれの役割を担い、自らが進んで行動し、地域社会を共に支える市民」の育成

構想推進の基本的な考え方

- 「掛川市総合計画」の段階的推進を図る。
- 市民総参加による教育の振興に努める。「かけがわ教育の日」の開催。
- 「生涯学習運動」が豊かに花開くまちづくりの一翼を担う。

掛川市教育委員会

〒436-8650 掛川市長谷一丁目1番地の1 TEL0537-21-1109/FAX0537-21-1222

掛川市教育委員会

基本目標 豊かなふれ合いや生活体験の中で個性を発揮し、自立心と、人とのかかわる力のある子どもの育成**【施策の方向と主要事業】****1 養護・教育内容の充実**

- (1) 一人一人の成長を促す教育・保育課程と指導計画の充実
・ 障害児保育、乳幼児保育、外国人保育、延長保育、一時預かり など
- (2) 乳幼児期から児童期への教育の円滑な移行を目指し、乳幼児教育における教育内容や指導方法の充実
・ 幼児ことばの教室、発達相談員の配置 など
- (3) 豊かな生活体験の場の工夫、豊かな感性と表現力、自己肯定感を育む遊びや活動の推進
・ 図書コーナー整備推進、蔵書の充実 など

【24年度主要事業・指標・目標値】

【主要事業】
「発達相談員」や「幼児ことばの教室」などによる要支援児の保育充実

【指標】
指導に満足している保護者の割合

【現状値(23年度)／目標値】
88%/89%

2 保育者の資質・意欲の向上

- (1) 園内研修の充実と学び合う職員集団づくりの確立
・ 主任研修会、初任者研修会、リーダーの交流研修会 など
- (2) 保育者の専門性を高めるための研修推進、小学校教員との連携・交流の推進
・ 教職員指導技術研修会、小学校教員との連携・交流・意見交換 など
- (3) 特別支援教育理解推進のための保育者の資質向上
・ 特別支援教育のコーディネーター研修会 など

【主要事業】
保育者の専門性を高める研修の充実

【指標】
園運営に満足している保護者の割合

【現状値(23年度)／目標値】
97%/98%

3 安全・安心で豊かな園環境の整備

- (1) 園児の安全確保及び園の安全管理に向けての取組
・ 危機管理、安全管理、安全指導に関するマニュアルの作成・活用 など
- (2) 安全で安心して生活できる施設・設備の充実
・ 危険箇所の把握、危険箇所記載の安全マップの作成・活用 など
- (3) 乳幼児が主体的にのびのびと遊ぶことができる環境の確保
・ 火災や地震を想定した避難訓練、具体的な防災対策 など

【主要事業】
待機児童対策の推進

【指標①】
保育ママ利用児数

【現状値(23年度)／目標値】
8人/9人

【指標②】
認可外保育所への就園率

【現状値(23年度)／目標値】
81%/82%

【指標③】
一時預かり利用児の数

【現状値(23年度)／目標値】
6,113人/6,200人

4 家庭や地域住民等と連携した園

- (1) 子育て支援体制の充実
・ 預かり保育や子育て支援センターの充実と連携の強化、保育相談実施 など
- (2) 幼保園・幼稚園における「学校評価」の実施と情報公開の推進、地域との教育力の活用
・ 「自己評価」「学校関係者評価」の公表による園理解と連携の推進 など
- (3) 小中学校との連携の推進
・ 近隣小中学校との連携の強化、交流の推進

【主要事業】
「預かり保育」の充実

【指標①】
実施園数

【現状値(23年度)／目標値】
1園/2園

【指標②】
安心して子育てができと感じている保護者の割合

【現状値(23年度)／目標値】
77%/80%

5 保育一元・幼保一体化の推進

- (1) 幼稚園・保育園の適正規模化、市の「幼保園の理念」に基づく園運営の推進
・ 振興計画の推進、公私立幼保園連絡会の開催 など
- (2) 就学前教育の充実
・ 幼保園訪問による園運営指導 など
- (3) 幼稚園・保育園の園児交流活動の推進
・ 「合同保育」「交流保育」の実施 など

【主要事業】
幼稚園における就学前教育の充実

【指標】
園運営に満足している保護者の割合

【現状値(23年度)／目標値】
92%/93%

基本目標 夢に向かって、自ら考え自ら判断し、心豊かにたくましく生きる子どもの育成**【施策の方向と主要事業】****1 「確かな学力」の向上を目指す学校**

- (1) 魅力ある授業の展開
・ 学力向上プラン、新学習指導要領への対応、大洞小学校指定研究 など
- (2) 少人数指導など個に応じた指導体制の確立
・ 35人学級編制や指導方法工夫改善、小学校低学年支援 など
- (3) 特別支援教育の充実
・ 学校サポーター、特別支援コーディネーター研修会 など
- (4) 自ら課題を見つけ、自ら追求する「総合的な学習の時間」の充実
・ 自ら課題を見つけ、自ら追及する活動の推進
- (5) 小学校の外国語教育の充実
・ イマージョンキャンプ、小学校指導資料掛川スタンダード、S-ALT、J-ALT、E-ALT
- (6) 環境教育の充実
・ エコネット・チャレンジ(省エネ、節電、リサイクル等)による環境推進活動

【主要事業】
魅力ある授業の展開

【指標】
「学校で好きな授業がある」と答える児童生徒の割合

【現状値(23年度)／目標値】
89%/92%

2 豊かな感性、健やかな心身を育む学校

- (1) 道徳教育の充実
・ 生き方科研究推進、上内田小学校指定研究、「なるほど なっとく 金次郎さん」の活用
- (2) 豊かな心を育む読書活動の推進
・ 学校図書館支援室と学校図書館司書による推進、学校図書館担当者研修 など
- (3) 食育の推進、健康増進と体力・たくましさの育成
・ 学校栄養職員派遣、小学校市内陸上大会、中学校部活動の推進
- (4) 文化芸術活動の推進
・ 「キラリふれあいコンサート」、保幼小中合同美術展など など

【主要事業】
学校図書充実事業

【指標】
「読書が好き」と答える児童生徒の割合

【現状値(23年度)／目標値】
73%/75%

3 家庭や地域住民等と連携した開かれた学校

- (1) 地域ボランティアや「その道のプロ」を活用した教育活動の展開
・ 大学生・退職教員によるボランティア活動の推進、各学校地域ボランティア
- (2) 地域の自然・歴史・文化などを生かした体験学習の重視
・ 地域教材研究会、「わたしたちの掛川」平成24年度版発行、社会科における地域学習の推進
- (3) 学校評価の実施と教育活動成果の発信
・ 主幹教諭・教務主任研修会等による推進
- (4) キャリア教育の推進
・ 中学校における職場体験、小学校におけるキャリア教育の手引き、ゲストティーチャー
- (5) 中学校区学園化構想の推進
・ 城東中学校区学園化構想指定研究による推進、平成25年度全学校実施

【主要事業】
中学校区学園化構想の推進

【指標】
小・中学校ボランティアの数

【現状値(23年度)／目標値】
1,884人/2,000人以上

4 社会の変化に対応する学校

- (1) 情報教育の推進
・ パソコン活用授業、学校図書館蔵書データベース化 など
- (2) 外国人児童生徒の指導の充実
・ 外国人児童生徒支援スクール、教育センター外国人児童生徒支援室 など
- (3) 学校の適正配置などの継続的な検討
・ 児童生徒数が100人以下の小規模校区による学校のあり方検討 など

【主要事業】
「頼もしい先生」を育成する研修の充実

【指標】
「学校が楽しい」と思える児童生徒の割合

【現状値(23年度)／目標値】
91.5%/93%

5 信頼される学校

- (1) 「頼もしい先生」を育成する研修の推進
・ かけがわ学校経営塾、初任者研修会、センター指導技術研修 など
- (2) 安全・安心な教育環境の整備
・ 緊急メール配信事業、不審者対応、養護教諭緊急対応研修会 など
- (3) 生徒指導、就学指導、教育相談システムの充実
・ 教育センター教育相談及びみどり学級、要支援児童生徒対策連絡協議会 など
- (4) 安全・安心な学校給食の推進
・ 地元生産者等との連携強化 など
- (5) 調理場施設の安全性確保
・ 学校給食調理場整備事業
- (6) 災害に強い学校施設の整備
・ 小中学校校舎・屋内運動場耐震改築補強事業
- (7) 防災対策事業の推進
・ 各学校の防災対策マニュアルの見直し、防災(地震・津波・放射線)教育の推進

【主要事業】
防災対策事業

【指標】
地域防災訓練への児童生徒の参加率

【現状値(23年度)／目標値】
76%/80%

参 考 資 料（関係法令）

《地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）》

（平成１９年６月２７日改正　平成２０年４月１日施行）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第２７条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規程により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第３項の規程により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うことに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

《地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について（通知）》
（１９文科初第５３５号　平成１９年７月３１日　文部科学事務次官）（抜粋）

第一　改正の概要

１　教育委員会の責任体制の明確化

（３）教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表しなければならないこととしたこと。点検評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとした。（法第２７条）

第二　留意事項

１　教育委員会の責任体制の明確化

（３）教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

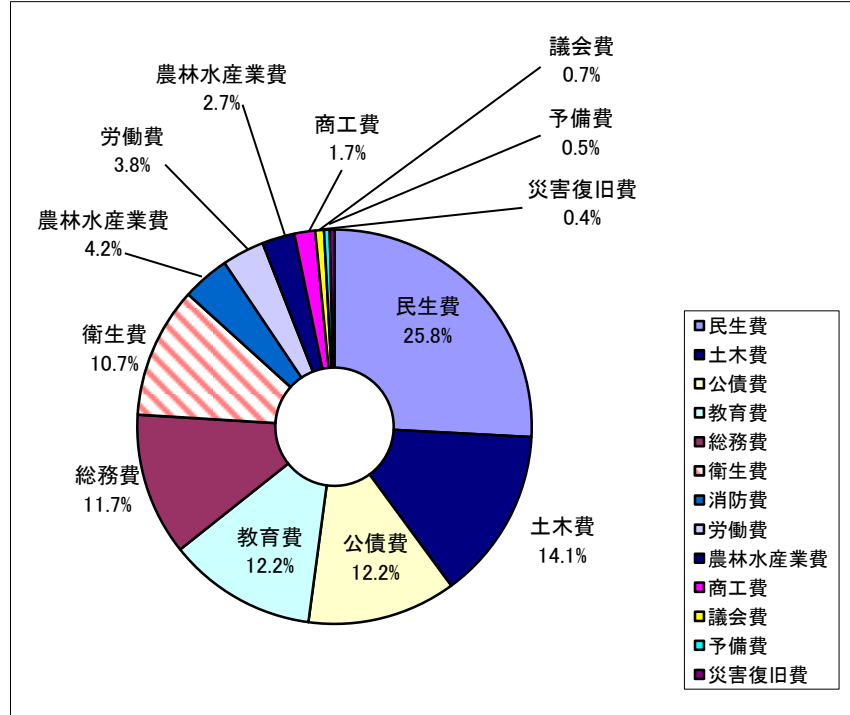
- ① 今回の改正は、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うものであること。
- ② 現在すでに各教育委員会において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するなどの取組を行っている場合には、その手法を活用しつつ適切に対応すること。
- ③ 点検及び評価を行う際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることについては、点検及び評価の客観性を確保するためのものであることを踏まえ、例えば、点検及び評価の方法や結果について学識経験者から意見を聴取する機会を設けるなど、各教育委員会の判断で適切に対応すること。

平成24年度一般会計歳出予算と教育費予算

一般会計歳出予算

単位:千円

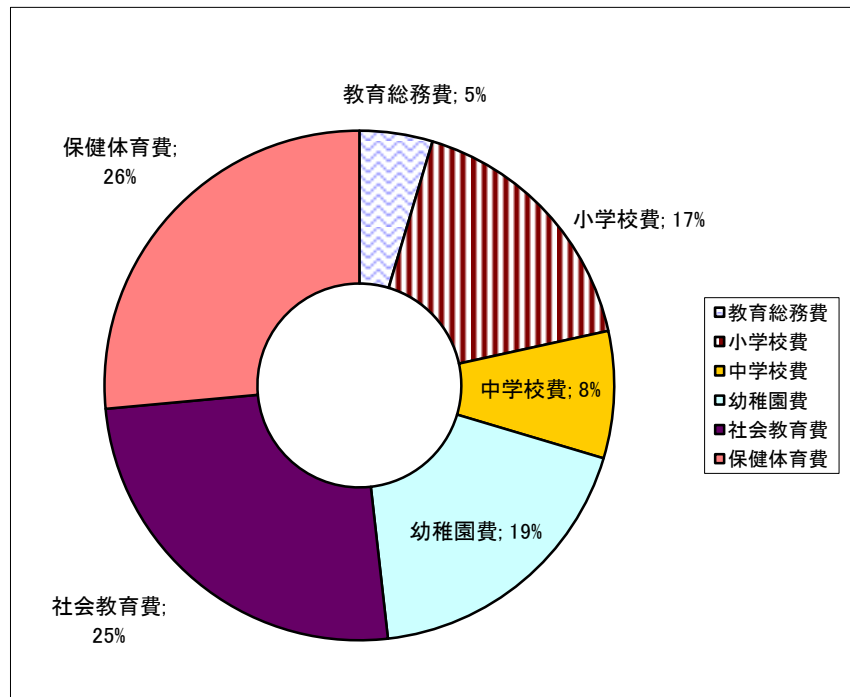
項目	予算額
民生費	11,064,498
土木費	6,035,425
公債費	5,222,664
教育費	5,219,885
総務費	4,998,105
衛生費	4,597,366
消防費	1,663,075
労働費	1,484,340
農林水産業費	1,143,352
商工費	730,828
議会費	306,172
予備費	195,961
災害復旧費	168,329
歳出額計	42,830,000



教育費予算

単位:千円

項目	予算額
教育総務費	280,089
小学校費	1,022,785
中学校費	486,639
幼稚園費	1,123,651
社会教育費	1,530,366
保健体育費	1,599,007
計	6,042,537



『第1次掛川市総合計画後期基本計画』の教育委員会に係わる施策指標一覧

成果指標	担当課	現状値 (24年度)	目標値 (28年度)	備 考
学校が楽しいと思う児童生徒の割合	学校教育課	91.6%	95%	「学校教育充実度合い」を測る指標
学校ボランティアとして活動している市民の数	学校教育課	2,380人	2,000人	「家庭・地域・学校の連携」を測る指標
3歳児の就園率	幼児教育課	93.5%	93%	「幼児教育の充実」を測る指標
保育所待機児童数	幼児教育課	27	0人	「保育サービスの充実度」を測る指標
掛川市青少年声掛け運動申込者数(20歳以上累計)	社会教育課	13,948人	15,930人	「成人市民と青少年との関わり度合い」を測る指標
生きがいを感じる活動や趣味に取り組む市民の割合	社会教育課	52.2%	75%	「市民の学習意欲」を測る指標
週1回以上スポーツ・レクリエーションに取り組む市民の割合	社会教育課	32.4%	50%	「生涯スポーツの浸透度」を測る指標
市営のスポーツ施設利用者数	社会教育課	74.3万人	112. 3万人	「市営施設の満足度」を測る指標
文化財展の来場者数(講座受講者、大須賀歴史民俗資料館、埋蔵文化財センターの入場者数含む)	社会教育課	1982人	3,530人	「歴史・文化への触れ合い度」を測る指標
所蔵資料総数(3館合計)	図書館	598,957点	642千点	「図書館の充実度」を測る指標
年間貸出人数(3館合計)	図書館	228,877人	221. 5千人	「図書館の充実度」を測る指標
年間入館者数(3館合計)	図書館	458,904人	461千人	「図書館の充実度」を測る指標
年間実利用者数(3館合計)	図書館	21,869千人	25. 1千人	「市民の読書好き度」を測る指標
レファレンス度(3館合計)	図書館	1,804件	3, 100件	「図書館のサービス度」を測る指標

用語解説

■ あ行

【預かり保育】

幼稚園が、在園児を対象に通常の降園時間以降の保育を行うこと。保育園の場合は、延長保育という。預かり保育を利用した場合は、別途預かり保育保育料が必要となる。

【移動教育委員会】

教育委員が、教育に対する理解を深めたり地域住民へ情報を発信したりするために、教育委員会での協議・報告の場を園・学校や所管施設に移し、意見交換や視察を行うもの。

【イングリッシュイマージョンキャンプ】

市内の小学校5年生から中学生を対象に、語学指導助手（ALT）や地域の外国の人を講師とし、ならここの里・さくら咲く学校を会場に、夏休みの1泊2日の間どっぷり英語に浸るキャンプ。その中で、様々な英語活動を行い、英語コミュニケーションの楽しさを体感し、英語や異文化を学ぶことにより、グローバルな夢や希望をもち、世界にはばたいていこうとする心を育てる。

■ か行

【かけがわ学校経営塾】

新任の管理職や指導的立場にある教職員を対象に、企業家等から経営者としての視点や手法を学んだり、地域のために取り組んでいる方から夢とビジョンを持つことの大切さを学んだりすることにより、リーダーとしての識見を高めるための研修。

【かけがわ教育の日】

平成19年度に初めて開催した。市民一人一人が教育の重要性を認識し、学校・家庭・地域社会が連携して、教育のあり方を考え、行動するための契機とし、教育の振興を図ることを目的としている。また、開催にあたっては、教育を支援している団体による「かけがわ教育の日」協力団体協議会が組織されている。（平成25年度現在、協力団体数は47団体）

【学校図書館支援室】

市内小・中学校の学校図書館の機能の充実・強化を図るため、配置された学校図書館支援員を中心に、学校図書館の活用や運営に対して相談及び助言・支援を行うよう、平成23年1月から、掛川市教育センター内に設置された。

【家庭教育学級】

幼稚園や幼保園を拠点として、親同士が学習したいことを自ら企画し、計画的・継続的に活動を行っていく事業。

【家庭教育出前講座】

市内の企業や事業所に市から講師を派遣し、1時間程度の講座を実施することにより、男性に基礎的な家庭教育の意義・役割や子どもの心理などを学習してもらう事業。

【教育委員会・教育委員長・教育長】

教育委員会とは、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき設置された合議制の執行機関である。委員は議会の承認により首長によって任命され、委員による選挙により、教育委員長が1人選出される。

教育委員会は合議により、教育に関する一般方針の決定など、その権限に属する職務を遂行する。本来の教育委員会とはこの行政委員会を指すが、実務の処理のために、教育委員会事務局があり、事務職員が置かれている。この組織を広義の「教育委員会」と呼ぶことがある。

教育委員会事務局には、教育委員会の指揮監督の下に、教育委員会の権限に属するすべての事務をつかさどるため、教育長が1人置かれている。

■た行

【地域コーディネーター】

平成25年度に各中学校区に配置予定。各中学校区の子ども育成支援協議会の事務局を担当すると共に、園・学校の希望やニーズに応じて、地域の園・学校支援ボランティアの派遣調整を行う。

【中学校区学園化構想】

「幼稚園、保育園、幼保園、小・中学校が連携を強化し、共に子どもの教育にあたること」と「地域の教育力を園・学校に取り込むことで様々な効果をもたらすこと」が未来を担う子どもたちの健やかな成長にとって大切であるという考えのもと、地域全体で園・学校の保育・教育を支援する体制を構築し、教育活動の質の向上を図る。

そのため、学校、家庭及び地域住民等の連携・協力がより一層円滑に機能できるように、その中核組織として、区長会、健全育成関係者、PTAなどの代表者からなる「子ども育成支援協議会」を設置し、協議会ごとに連絡・調整役としての「地域コーディネーター」を配置する。

【通学合宿】

異なる学年の子どもが、地域の宿泊可能な施設（公民館、集会所等）で一定期間共同生活を行いながら学校に通う体験学習。食事の準備や掃除などの基本的な生活体験を共同で体験することにより、集団生活への適応力、生活技能などを身に付ける機会となり、自主性・社会性・協調性・我慢する力などを育てる。

【図書館フェスティバル】

読書推進活動の一環として、「読書週間」に合わせて10月から11月にかけてフェスティバルを開催し、読書するきっかけづくり、より読書に親しむ働きかけを行う。各図書館において、朗読会、講演会、読み聞かせ、講座、展示などが催される。

■な行

【なるほどなっとく金次郎さん】

掛川市教育委員会が、子どもたちが金次郎の教えを学び、もう一度自分の生活を見つめ直したり、自分の住んでいる地区や掛川市について考えたりする教材として平成23年9月に作成した副読本。

■は行

【発達相談員】

平成21年4月から新たに配置し、幼児ことばの教室（大東教室）に籍を置く。

園の要請に応じて、園生活の様子を観察したり、支援を要する園児に対し発達検査を実施したりして個の発達について理解し、園の生活にスムーズに適応できるよう、発達に応じた保育のあり方について園や保護者に指導助言する。

また、保健予防課では乳幼児検診後に、経過観察を必要とする乳幼児に対し「個別相談」を実施しているが、3歳で就園後も相談を継続した方がよいケースは、就園後1回のみ実施し、その後は発達相談員が「幼児相談」として相談業務を引き継ぐ。

【人づくり構想かけがわ推進本部会議】

掛川市の教育構想「人づくり構想かけがわ」の基本目標である「夢実現に向かう、心豊かで凛とした市民」の育成を推進し、市長部局と教育委員会とが連携し教育行政に取り組むために、設置された会議。市長・副市長・総務部長・企画政策部長・教育委員が参加し、意見交換を行う。

【保育ママ】

市の認定を受けた「保育ママ」が、保護者の就労等により養育できない乳幼児を、「保育ママ」の自宅など家庭的な環境のなかで保育する事業。

【放課後子ども教室】

地域の多様な方々の参画を得て、子どもたちの安全で安心な居場所をつくり、学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等に取り組み、子どもたちが地域社会の中で心豊かで健やかに成長していく環境を推進する活動。

【放送大学掛川教室】

放送大学は通信による教育を行う教育研究組織（学部と大学院）を置く通信制大学で、単位認定試験に合格すると大学卒業に必要な単位を修得できる。掛川教室は、DVDなどで授業の再視聴が出来る施設。

■ や行

【幼児ことばの教室】

言葉が少ない、会話ができない等の発達が気になる場合や赤ちゃん言葉になる等の発音が気になる場合、また、滑らかに言葉が出てこない吃音症（どもり）等のコミュニケーション障害をもつ幼児とその保護者を対象に一対一で通級指導を行う。

また、言語指導だけでなく、人とのかかわりが必要な場合はグループ指導を実施し、子ども同士のふれ合いの中でかかわり方を学ばせるなどして対応している。

■ ら行

【60歳の集い（耳順式）】

市民が地域づくりやまちづくりに積極的に参加し、公共サービスの担い手にもなる「市民自治のまちづくり」を進めるためのきっかけづくりとして、市民の交流の場として平成22年度から開催されている。

教育委員会の事務に関する自己点検・評価報告書（平成25年9月）

編集・発行 掛川市教育委員会事務局 教育政策室

〒436-8650 掛川市長谷一丁目1番地の1

電話番号：0537-21-1109

FAX：0537-21-1222

e-mail：koyoikubu@city.kakegawa.shizuoka.jp